

肝心なのは 壁のなかの棧を探すこと

家具を壁に固定するには、まず、壁のなかに隠れている棧を探し出す必要があります。

棧には、縦方向の縦棧と横方向の横棧がありますが、縦棧を見つければ、家具の高さにかかわらず、壁に固定することができます。

この縦棧の位置を確実に知るには、やはり設計図を手に入れるか、施工会社に問い合わせることです。

しかし、そういう手立てがない場合は、ドライバーなどの太い柄の部分で、壁を2cmずつ横にずらしながら叩いてみましょう。棧は、図②のように30cmあるいは45cmに1本の間隔で入っているケースが多いようで、棧の入っている部分と空洞の部分では、音や感触に微妙な違いが感じられます。

叩いてみて固いコンコンという音がしたら、そこには棧が入っていると考えてよいでしょう。棧が入っていない部分は、叩くと太鼓状に響く音がします。ここに固定のための金具を取り付けても、効果は期待できません。

なお、ホームセンターやDIYショップでは、壁の棧を見つけるためのセンサーやプッシュピンが市販されています。これらを活用すると、より正確に棧を見つけることができます。

家具を 固定できない壁もある

ところで、最近の集合住宅に使われるS1壁やGL壁(図③)といった防露壁には棧が入っていないので、壁に直接、家具を固定することはできません。そのうえ、コンクリートに発泡プラスチック系の断熱材を接着しているため、もしも家具を固定した場合、地震で揺れると家具の重さで壁の表面がはがれてしまつ危険性があります。

一般的に防露壁の使用範囲は限られていますが、特にS1壁の場合、叩いた時の音や感触がコンクリート壁と間違えやすいので、注意が必要です。

壁の種類がわからない時は 専門家に相談を

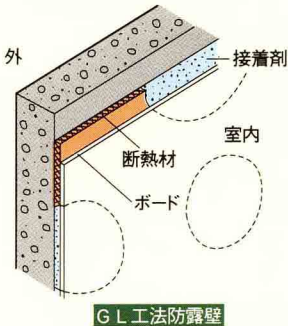
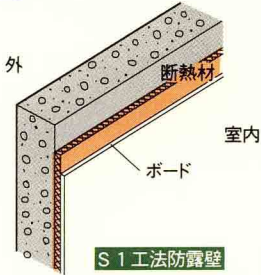
多くの集合住宅の戸境壁はコンクリートでできていますが、なかには軽量鉄骨を棧とし、両側にボードを貼った乾式戸境壁(図③)を使うことがあります。この壁は、遮音や耐火の問題上、穴をあけることはできません。

このように、壁には種類が多く判別が難しいので、不明な点がある場合は、必ず工務店などの専門家に相談しましょう。

そのうえ、集合住宅の場合、賃貸住宅はもとより分譲住宅でも隣戸との境の壁や外部に面する壁は、一般的に共用部分とされています。勝手にコンクリート壁に金具などを取り付けることはできない場合があるので、管理事務所や管理組合に確認をする必要があります。

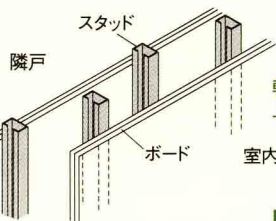
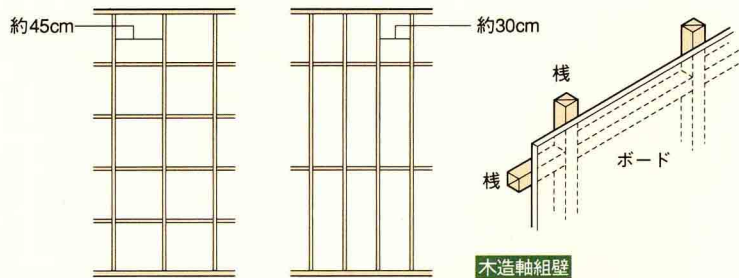
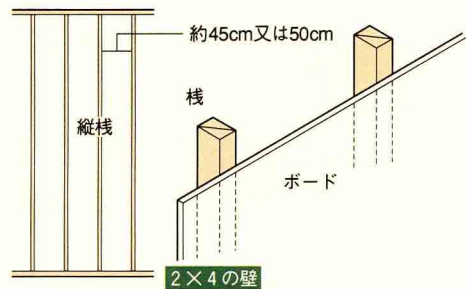
③家具を固定できない壁

S1壁やGL壁など発泡プラスチック系の断熱材が入った防露壁には棧がないため、金具による家具の固定はできない。一般的に、防露壁は外に面する壁に使用されている



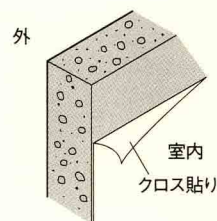
②壁の種類による棧の入り方

木造戸建住宅で2×4の壁は、和室・洋室を問わず、約45cmの間隔の縦棧が入っている。木軸壁は戸建住宅、集合住宅ともに用いられる間仕切り用の壁で、縦・横約45cmの等間隔に棧が入るタイプと、30cm間隔で縦棧、90cm間隔で横棧の入るタイプの2種類がある



乾式戸境壁は、遮音や耐火の問題上、穴をあけることはできない

乾式戸境壁



コンクリートの壁にビスを打つことは難しい。しかも集合住宅では管理事務所などの許可が必要

コンクリート壁